

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	フリー・スタイル	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.590	△RG	0.025	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：FREE STYLE

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

テストボール：ASCENT APEX

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

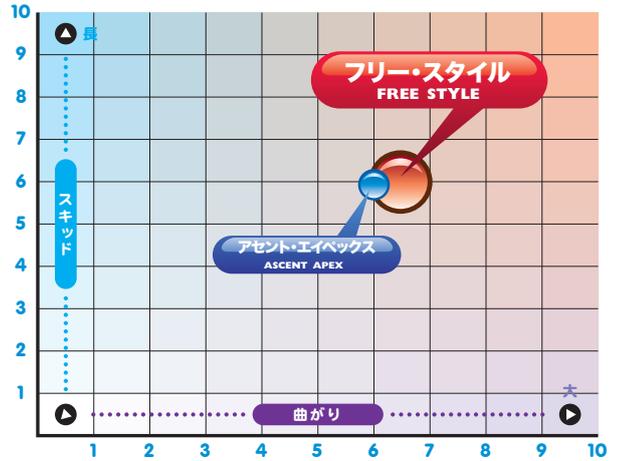
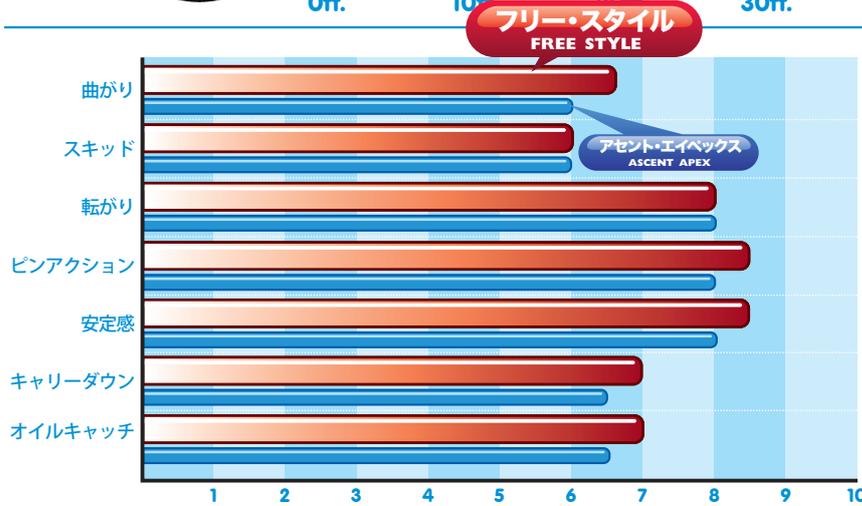
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

MOTIV社のJACKALやREVOLTと言えはあまりにもポピュラーな製品ですが、その性能の裏付けもTurmoil Reactiveであることも事実です。MOTIV社のボールの良さはHigh Performanceだけにその目が向きがちですが、LFP(Low Friction Pearl)のようにMedium LightからLightの領域でもしっかりとPerformanceをだすことができること。それはHeavy Oilで他社の追従を許さないHFP(High Friction Pearl)の技術があるがゆえの、後半枯れてきてるオイル状態でもしっかりとしたPerformanceがだせることです。「オイルがあるときにキャッチさせられる技術があれば、どの領域でもキャッチをコントロールできる。」それこそがMOTIV社が多くのユーザーから支持される理由なのだと思います。今回のFree Styleは、ややオイルがあるときから薄くなるまで、オイルがややある時からFree Styleを使用できる「移行させやすく」コントロールされた性能です。なぜLFPなのかなぜRecon Coreなのかを多くのユーザーは投球することで知ることでしょう。今回Free Styleは2色から構成されます。私のテストの感想では2つのボールは同じスペックですが、ほんの少しか青のほうが曲がるイメージがありました。今や構成は一緒でも配色でPerformanceは変わることは知られるようになってきましたので、驚くこともないでしょう。LFPはLow Frictionですのでかなり走りそうなイメージですが、さすがにJACKALやREVOLTに使用されたCoverstockの”Low Friction”ですのでキャッチは噛み過ぎはしませんが、流されるほど弱くはありません。ここでRecon Coreの特性が生きてきて、高いRGと低い△RGが先へ先へとボールを誘い、先でのシャープさをださせているのはマッチングの恩恵でしょう。曲りが奥での動きに集約されているので、遅くなって中に入ったラインでも角度のある入射角を得ることができます。

特記事項 JACKALやREVOLTでメジャーなTurmoil ReactiveのLFP(Low Friction Pearl)と先での動きが特徴的なRecon Coreとの組み合わせでMedium LightからLightなコンディションをカバーします。